

ふなから



目次

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 会長挨拶（黒崎浩己）……………2 | 7. 同窓会だより……………10 |
| 2. 学部長挨拶（武田 健）……………3 | 8. 2000年度 会計報告……………11 |
| 3. 同窓会総会・特別講演（久保田和彦）…4 | 9. 2001年度 収支予算……………12 |
| 4. 研究室紹介（小島研究室）……………7 | 10. 日本薬剤師会学術大会でのポスターセッション
一薬科大若しくは薬学部の紹介一 ……13 |
| 5. 実践社会薬学講座……………8 | 11. ホームページの開設……………14 |
| 1) 第6回実践社会薬学講座を担当して | 12. 埼玉県薬剤師会の薬剤師職業斡旋……………14 |
| 2) 医薬品企業グループ | 13. 同窓会入会率（平成14年度1月30日現在）…16 |
| 3) 平成13年度実践社会薬学 | 14. 訃報／編集後記……………16 |
| 6. 総会での同窓会会則改正案の提案……………9 | |

同窓会会長挨拶

東京理科大学薬学部同窓会会長 黒崎 浩己



今年度の薬学部同窓会総会で小原会長より同窓会会長を引き継ぎました1回生の黒崎浩己です。一言お願いとご挨拶を申し上げます。殆どの皆様には、また1回生かと思われたことと思います。この変化の激しい、ドッグイヤーとも言われる時代、いろんな場面で変革・改革が叫ばれている時代ですので、還暦を過ぎた1回生の私が会長を引き継ぐということは、時代に逆行していると思われることは当然のことと思いますし、現に私自身もそう思っています。

同窓会会長の若返り化については、数年来の検討課題となっておりました。しかし、会長候補者はおられるものの50歳前後の方々は、絶えず重要な仕事を抱え忙しく働いておられ、同窓会の仕事にまではなかなか時間が割けない年代であることから、次の時代の方へ会長職を引き継ぐことがなかなか難しい状況にありました。

この薬学部同窓会を立ち上げ、その後ずっと会長として采配を振るわれた小原会長は、ご自身で会社を興され、現在も世界を渡り歩いて仕事をしておられる多忙な中、14年間という長い間同窓会の発展に尽くしてこられました。同窓会としての基礎を整えられたことに加え、社会の各方面で活躍されている同窓生の協力を得て他大学に先駆けた「実践社会薬学講座」を単位認定の講座にまで育て上げられたことは大変なご努力でありご苦労なことだったと思います。

そんな折り、公私ともに多忙を極めておられる小原会長より「次の時代の会長にバトンを渡すまでのつなぎ役として是非引き受けて欲しい。」と会長を依頼されました。私は何度もお断りしましたが、どうしてもという懇願を受けまして、短期間ならとお引き受けしたような次第です。今まで幹事として殆どお手伝い出来なかったことと、還暦を過ぎて時間的余裕ができたこともお受けした理由の一つです。

ところで、皆様には既にご存知のことと思いますが、現在の薬学部校舎は平成15年3月までに今の新宿区市ヶ谷船河原町から野田に移転することになっておりまして着々と移転計画が進んでおります。このため現在、校舎の一隅をお借りしている当同窓会事務局の場所をどうするか、又同窓会を今後どのように運営していくべきか等同窓会として判断しなければならない問題も抱えています。

このような中私には、小原会長のようにカリスマ性も無く、強烈な指導力も創造性も持ち合わせておりませんが、私を補佐して下さる強力な4人の副会長の方々が選出されましたので心強く思っております。副会長をお願いする4人の方々を簡単にご紹介しますと、一人目は7回生の寺山博行さんです。企業に勤めておられる傍ら、昨年の当同窓会総会の担当幹事として成功に導かれ、また実践社会薬学講座の講師としてもご活躍頂いております。その内容は前年の会報に掲載されております。二人目は11回生の石井甲一さんです。石井さんは古くから同窓会幹事として多大のご協力を頂き、特に実践社会薬学講座については最初の立ち上げ段階から全体の取り纏め役としてまた、講師としても活躍して頂いております。三人目は23回生の上村直樹さんです。薬局を経営される傍ら、地元の薬剤師会の支部長をされたり、理大薬学部の非常勤講師をされておられるなど、公私共に活躍しておられます。又同窓会の幹事会でも多くの斬新な意見を出して頂いております。四人目は石坂隆史さんです。大学院を終えられてから当大学の職員として勤務され、同窓会事務局の山口稽子前副会長のお手伝いをして頂いてきました。又ご自身の研究業務の傍ら、当同窓会のホームページ開設の責任者として貢献して頂きました。今後も大学との連携役としてご活躍をお願いしています。

私は、この4人の若い副会長の方々に加え、既

に活躍しておられる幹事の皆さんと今後推薦される卒業各期の幹事の方々のお知恵を拝借しながら、今後の同窓会の進むべき方向を見つけていきたいと思っております。そのためには、幅広い年代の幹事の方々から忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っております。

従来同窓会としての活躍は縦の年代にとらわれてきた傾向がありましたが、今後は横（同期）の繋がりを広くしていくことにもっと力をいれるべきだと思っています。現在同期会を開催される場合には、同窓会から協賛金を提供する制度ができています。この制度を利用して多くの同期会が開催されますと横の幅が広がって行き、同窓会全体

が大きくなると共に同窓会会員数も増えていくことと思います。

インターネットの利用が日常茶飯事となっている現在、当同窓会のホームページが開設されました。このホームページを通じて同窓会会員の方々に活用して頂く情報を発信していくのに加えて、会員の皆さんからの要望・質問等に対応できるような体制にしていくことが、会員の方々からの支持が得られ、ひいては同窓会の繁栄に繋がっていくものと期待しております。

皆さんの今後の多大なご支援ご協力をお願い致しますして就任のご挨拶と致します。

学部長挨拶

学部長 武田 健

今年は例年になく暖かく、満開の桜のもと卒業式が、また、ハナミズキが咲くなか入学式が武道館で行われました。同窓会の皆さんは如何お過ごしでしょうか。紙面を借りて薬学部近況を簡単にお知らせします。

薬学部は平成15年3月に野田キャンパスに全面移転することが決まっています。東武野田線運河駅から理工学部を抜けて生命科学研究所向かう途中の左手一帯の広大な土地に新棟が建設されつつあります。4月からは全ての教育・研究を野田キャンパスで行うことになります。理工学部の応用生物科学科、基礎工学の生物工学科、生命科学研究所など既存の生命系学部学科と薬学部が連携して、生命科学・医療科学の教育研究拠点を創っていくことで学内のコンセンサスが得られており、その一環として既にゲノム創薬研究センターの建物が完成し、活動を開始しています。このセンターは田沼教授がセンター長を務め、構造ゲノム科学、細胞シグナル制御、分子設計創薬、遺伝子・細胞治療の4部門からなり、薬学部だけでなく、上記の野田生命系の教員や外部研究者が所員として参加した学内外に開かれた中核的研究拠点として注目を集めています。製薬会社をはじめ多くの企業が熱い視線をおくっており、産学協同と

いう観点からも発展が期待されています。

移転後の薬学部においては、理科大学及び薬学部の伝統を活かし、また21世紀の科学の潮流を考慮し、ゲノム科学（ポストゲノムを含む）をベースにした創薬研究など医薬品の開発を重視した高度な教育研究体制を作り上げていきたいと考えています。そのためゲノム創薬研究センターの他に薬学部棟内に創薬情報科学研究センター、分析化学センターを設置し、ファーマコインフォマティクスを中心に情報科学の活用を図りつつ、生命、創薬、医療、環境・衛生の4つの分野の科学を連携、統合していく方針です。また、薬剤師養成という面から、6年制を念頭に置いたシステムも同時に立ち上げることになっています。新棟内に医療薬学教育研究センターを設置し、医療薬学、情報薬学の教育研究体制を強化し、学外医療機関と連携しながら、医療現場で活躍できる高度臨床薬剤師の養成を目指します。

長い間薬剤師教育の年限延長の問題が議論されていますが、なかなか結論が出ない状況にあります。そんな中、私立薬科大学協議会や国公立薬学部長会議は新しい時代の薬学（薬剤師）教育に必要なカリキュラムの検討を進めてきました。最近、さらに薬学会が加わり、漸く薬学教育モデルカリ

キュラム案がまとまりつつあります。当学部では原カリキュラム委員長が中心になり、その内容を盛り込んで、6年制にも対応できる学部の新カリキュラム案を作り上げたところです。明治時代に薬学教育が始まって以来の大改革であり、6年間で薬学研究者や薬剤師をどのように養成していくか、大変大きな問題を抱えています。

今まで学外でご活躍の卒業生の皆様には実践社会薬学、医療薬学など講義や実習、研究などで多

大なご協力を戴いていますが、野田移転後、新生薬学部はますます同窓の力を必要としています。また、一方では大学が生涯学習の場として、積極的な役割を果たすことが期待されています。今後、同窓会と学部の間で、教育と研究について定期的に話し合う機会を持つことができればと考えています。学部発展のため、ご支援をお願いする次第です。

同窓会総会 特別講演

受容体機構とそのシグナル伝達

東京理科大学名誉教授 久保田 和彦

1) 細胞膜にある受容体(R)のシグナル伝達

細胞膜にあるRにはニコチン性アセチルコリンRのようなイオンチャンネル内蔵型R(cR)か三量体Gたん白(Gs, i, qなど)と共役する型、またはチロシンキナーゼ活性化型などの代謝型R(mR)がある。アゴニスト(A)が作用すると、Rのコンホメーションが変わる。これが最初のシグナルである。以下のシグナルトランスダクション(シグナル伝達、ST)の流れは図1に示す。

図1のようにmR以後で細胞内に伝達されるシグナルはCa²⁺濃度の増大、IP₃(イノシトール3リン酸)やDG(ジアシルグリセロール)などの増加、c-AMPの増加か減少などである。その先のシグナルはPKC(カルシウム依存性のキナーゼ)やPKA(c-AMP依存性のキナーゼA)などキナーゼ(リン酸化酵素)の活性化などである。PKAやPKC以後のシグナルは心筋や平滑筋の収縮や弛緩など、またDNAの転写制御のように細胞核に及ぶものもある。

cRまたはmRの多くは細胞膜を5または7回貫通するたん白だが、増殖因子やインスリンの作用するRなどは1回貫通型である。一回貫通型RはR上にあるチロシンキ

ナーゼ(PTK)の活性化というシグナルで始まるものがある。以後のSTの例を図2に示す。リン酸化されて活性化されたMAPK(キナーゼの一種、mitogen activated protein kinase)は核内に入り、転写因子の働きを変えるようなシグナルを核内に伝える。

2) Rに作用するアゴニスト、agonist(A)とアンタゴニスト、antagonist(An)、インバースアゴニストinverse agonist(iA)またはネガティブアンタゴニスト、negative antagonist)の関係(図3参照)。

Rに作用して細胞に刺激を生じる力をintrinsic activity(i.a.)、固有活量または内活量といい、フ

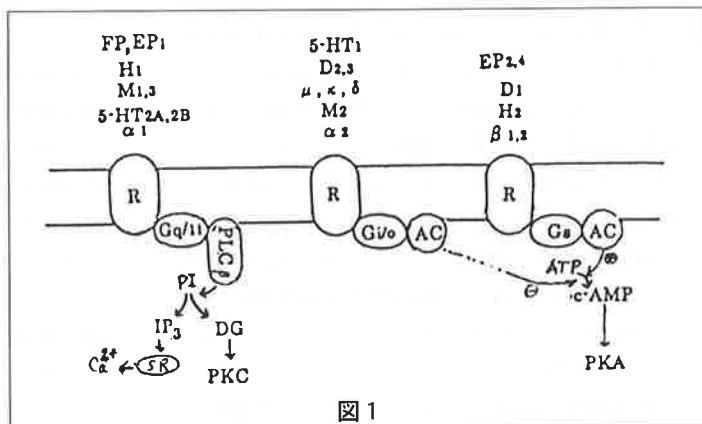


図1

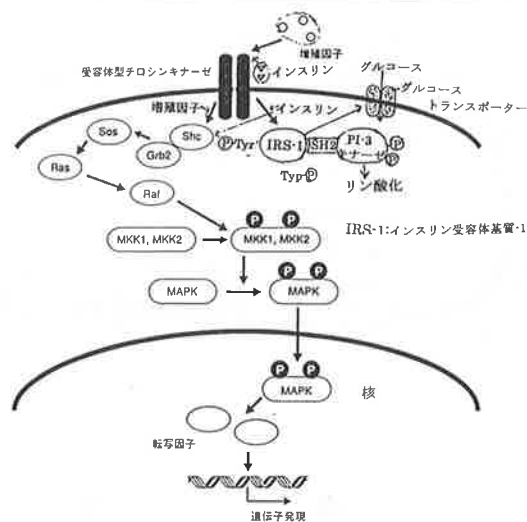
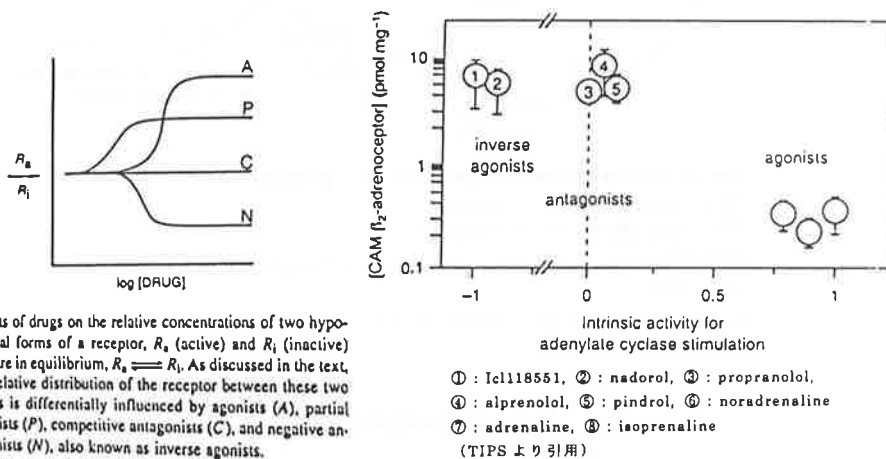


図2 秋山徹著：「シグナル伝達わかる」より引用（一部改変）



Goodman & Gilman 著、薬理書より引用

図3 アゴニスト～インバースアゴニストの関係

ルAはi.a.が1.0でAnはi.a.がゼロのA、両者の中間がパーシャルAと定義し、受容体のリガンドはA、An、パーシャルAの三種であった。最近、iAまたはネガティブアンタゴニストという負のi.a.をもつ薬物があると判明した。アドレナリンの β_2 -Rを例にとると、RはisoprenalineのようなフルAが高い親和性を示す活性型(R_a)とIcl18551のようなフルiAが高い親和性を示す不活性型(R_i)をとると考える。adrenalineはフルAに近いパーシャルAである。純粋なAnは R_a にも R_i にも親和性を示さない。Anといわれている

ものもごく弱いパーシャルAかパーシャルiAが多く、純粋なAnはむしろ少ない、プロプラノロールはほぼ純粋なAnであるが、ごく弱いiAともいわれる。AはAn、パーシャルA、iAのいずれとも競合拮抗する。

3) 核内にあるRのST (図4 参照)

ステロイドホルモンなどは核内にRがあり、DNAの転写制御を介して効果を現す。エストロゲン(ES)を例にとると、エストロゲンR(ES-R)のE領域にあるES分子結合部位にESが結合すると、ES-RはE領域で背中合わせに2量体と

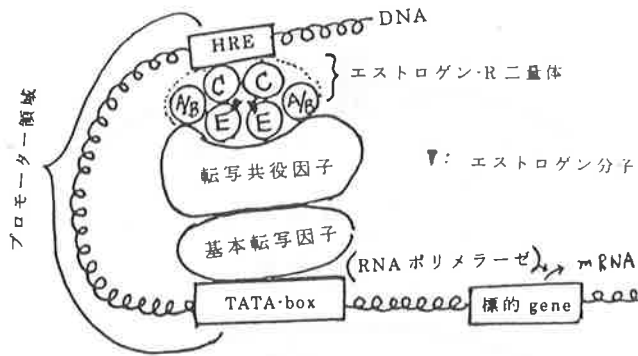
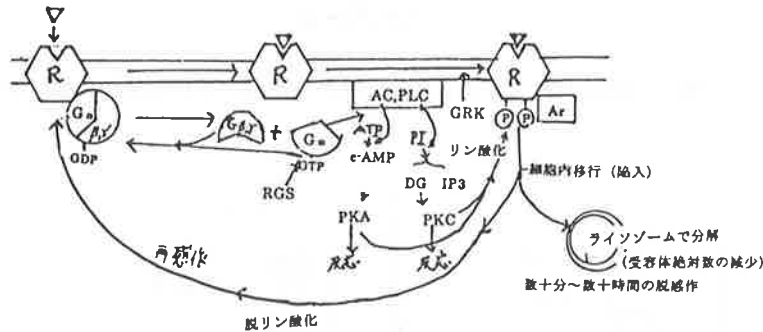


図 4



GRK: アゴニスト結合の G 蛋白共役型受容体で露出したリン酸化部位をリン酸化する (同種脱感作に与)

PKC: Gq 共役型受容体がよくリン酸化の基質

PKA: Gi, Gs 共役型受容体がよくリン酸化の基質

GRK: G protein coupled receptor kinase RGS: regulators of G protein signaling

Ar: アレスチン

AC: adenylate cyclase, PLC: Phospholipase C, DG: diacylglycerol,

IP3: inositol-triphosphate,

PI: phosphatidylinositol

図 5 受容体脱感作機構

なり、さらに ES-R の A/B 領域にあるセリンが MAPK でリン酸化される。その結果 ES-R (二量体) はその E 領域と A/B 領域で転写共役因子と結合する。2 量体 ES-R の C 領域は DNA のプロモーター領域にあるホルモンレスポンスエレメント (HRE) に結合する。こうして ES-R は一方で HRE と結合し、他方で転写共役因子と結合する。転写共役因子は基本転写因子を介して DNA のプロモーター領域の TATA ボックスに結合する。その結果 RNA ポリメラーゼが TATA ボックスの 25~30 塩基下流からメッセンジャー RNA (mRNA) への転写を開始する。転写された mRNA はリボソームに行きエストロゲン依存性たん白を合成する。

4) 脱感作と再感作 (図 5 参照)

A が受容体に作用すると受容体は GRK (G protein coupled receptor kinase) や PKA などでリン酸化され細胞質内に陥没して受容体の数が減る。これを down regulation という。アゴニストの反復適用ではダウンレギュレーションがかかり、効果が落ちる (脱感作 desensitization)。このさい、ある A で陥入した R に作用する A のみ脱感作が起きるから同種脱感作という。細胞内 SA に障害があると、複数の受容体で脱感作が同時に起こる (異種脱感作)。

研究室紹介

小島研究室

平成元年より本学生命科学研究所での研究・教育に従事してきましたが、平成12年4月に薬学部に戻ってきました。このたび、薬学部同窓会会報「ふながわら」より研究室紹介の機会を与えられましたので、簡単に紹介させていただきます。

現在の研究室には、研究員3名、大学院生6名、および4年生10名が在籍しております。大学院修了以来、今日に至るまで放射線の生物影響、あるいは放射性同位元素を用いた新規放射性医薬品の開発などの研究に従事してきましたが、近年、放射線生物学の研究分野でトピックスの一つとなっている低線量の放射線による生体に対する有益な作用“放射線ホルミシス”が主なテーマです。本稿では、これについて簡単に述べたいと思います。

「ホルミシス」という言葉は、「ホルモン」と同一語源のギリシャ語「horme」に由来し、「刺激」という意味で、放射線による刺激作用が「Radiation hormesis（放射線ホルミシス）」と呼ばれています。ご存じの通り、高線量の放射線は生体に対し種々の障害をもたらしますが、低線量の場合には、生体の恒常性の維持に有益な作用を示すことが明らかとなってきました。例えば、放射線抵抗性の誘導、免疫能の活性化などが既に報告されています。

私どもの研究室でも生体防御因子の一つであるグルタチオン（GSH）が低線量の放射線により誘導されることを遺伝子の解析から明らかにしました。GSHは、活性酸素に対する抗酸化活性をはじめとし、細胞の増殖、抗癌剤などに対する解毒作用等の生理活性を有し、生体防御上極めて重要な生体防御因子の一つです。さらに、この誘導により生体のもつ免疫能が活性化されることを、マイトジェン活性、あるいはナチュラルキラー活性などの測定から確認致しました。

低線量放射線を癌の治療に用いる試みは、既に臨床において非ホジキンリンパ腫の患者等に試みられており、良好な治療成績が得られております。さらに、動物実験においても、低線量X線による転移癌に対する抑制効果が我が国の研究者により報告されています。これらの抑制作用は、何れも、低線量X線照射により免疫能の活性化を介した、IL-6やTNF- α などのサイトカイン産生増加に起因するものと考えられていますが、私共の見いだした低線量の放射線による細胞内GSHの誘導がこれらサイトカイン産生免疫細胞の活性化に寄与していることは疑いのないことでありましょう。

今後、低線量放射線の臨床への有効利用の可能性を詳細に探って行きたいと考えております。



実践社会薬学講座

第6回実践社会薬学講座を担当して

11期 石井 甲一

実践社会薬学講座を開始して6年が過ぎました。最終講義後に行ったアンケート調査では、回答数69名中、とても役に立ったが63名で、引き続き好評だとの印象を持ちました。本講座の開始時の講義を受けた学生の何人かは、身につけた薬学の知識と技能を自ら社会の中で実践していることでしょう。その方々にとって、本講座の存在が少しでも役に立っているのであればこんなに幸せなことはありません。これまで本講座の実施に直接または間接にご協力いただいた、同窓会関係者の皆さんに心より御礼申し上げます。来年には薬学部が野田に移転することになっており、今後本講座をどのようにしていくのか現在同窓会の幹事会で議論されているところです。いずれにしても本年は第7回目の講座を5月18日から開始することが決定され、現在準備が進められており、これまで以上に学生にとって魅力のある講義にしたいと考えています。

さて、平成13年度（第6回目）の講義は、5月26日から始まりました。初日は、私が講座全般のガイダンスを「行政から見る、薬学卒業生の社会貢献」との副題で、自分の行政経験を加えながらお話ししました。

講義は、下記のようなテーマごとに進めました。

- 1 実践社会薬学講座を始めた理由
- 2 どのような先輩がどのような経験を語るのか
- 3 薬学部卒業生の進路先と薬剤師の社会的信頼度
- 4 薬のライフサイクル
- 5 これからの医療と薬剤師
- 6 行政での経験

まず、行政にいる私が全体のガイダンスをする理由を話したのですが、その中で、当時国民的に大人気であった小泉首相と、彼が厚生大臣当時

イタ飯を一緒にした話を披露したところ予想以上に受けてしまい、講義とは全く関係なかったのですが、つい長くしゃべってしまいました。おかげでその後の講義に対して、学生はほとんど眠ることなく聞いていただいたと思っています。

3については、過去10年間の薬科大学卒業生の業種別就職動向分布をグラフで示して解説しましたが、明確な薬局へのシフトがあり、その背景として「薬価差」など医療保険制度の変化が大きく関与していることなどを説明しました。更に3において、日米における業種別信頼度調査結果を比較形式で、これもグラフで説明しました。薬剤師は、米国で2位、我が国で4位であり、自信を持って薬剤師として社会でがんばって欲しいと希望を述べました。

5については、少々お説教くさくなりましたが、これからの薬剤師は「医療の担い手として責任をとれる薬剤師」であり、薬を患者が使用するに当たっての「リスクマネジャー」である、ことを強調しました。

今回は書画カメラなるものを初めて使わせていただきましたが大変便利で気持ちよく講義を終了することができました。最後に、今後の新たな講師希望者をお待ちしております。

医薬品企業グループ

7期 寺山 博行

5月26日

製薬企業の概要と今後の行方

安達順一

6月2日

製薬企業における探索研究
医薬品の開発業務

小松俊哉
平松秀隆

6月9日

MR活動の真実

塩谷勝

製薬会社営業実践ロールプレイ

塩谷、富秋、高井、安達

製薬企業製品開発会議ロールプレイ

寺山、富秋、小松、高井、安達

今年度の講座の特長は、講義の3日目に行った2つのロールプレイです。1つは企業の営業活動で、医薬品が使用される医療現場（病院）を想定し、講師が医師やMR役に扮装して実演し、会話を通して企業の営業マン（MR）が医師、薬剤師を通して医薬品とどのように関わっているのかを学生諸君に具体的に示しました。2つ目は、企業の研究開発活動です。医薬品が研究・開発される通過点の開発会議を想定し、講師が創薬研究、安全性研究、臨床研究、開発企画、営業企画などの各部門長に扮装して実演し、会話を通して医薬品開発がどのように行われているかのプロセスや、医薬品の安全性や有効性、品質がどのように確保されるのかを具体的に示しました。

医薬品の開発は、有機合成や微生物学を始め、分析化学、薬理、生化学、毒性、薬物動態、臨床薬理などの高度な専門知識の結集と、知的財産権、行政上の許認可、薬価制度など企業内で幾年にも渡って重厚に蓄積された経験則に基づいて達成されますが、これはまた企業の存続に関わる重要課題です。このようなテーマを短時間の講義で、しかも専門知識の浅い2年時が中心の学生諸氏に伝えるのは至難の業と言えるでしょう。これまでの企業グループの講義が学生にとっては分かりにくく、評判が振るわなかったのは当然と言えるかもしれません。

毎年、講師の事前打ち合わせを密に行い、パワーポイント使用、経験談重視で教科書的にならない臨場感ある講義で少しでも分かりやすく心をがけ、知恵を絞り努力しています。ロールプレイを取り入れたのもその一環ですが、評判は上々の様でした。

平成13年度実践社会薬学（薬局・病院）

上村 直樹

女性講師が多かったせいもあり女性の労働問題についての講義が多く、印象に残った。女性は男性とは違い、結婚や出産などで薬剤師としての労働に大きな影響を受け易い。しかし、薬剤師免許を生かすためには、そのような障害をどのようにして乗り越えるべきか、また乗り越えてきたかを教えてもらった。女子学生もこの問題となるとそう遠い将来ではないらしい。真剣に聞く女子学生の姿が印象的であった。

毎年最終回に行うロールプレイングには、今年からメーカーの薬相談室への質問の部分も取り入れ、薬局薬剤師とメーカーとのやり取りも再現した。また、若い薬剤師の話は年齢が近いせいか親近感が湧くらしく、学生が熱心に聞く傾向がある。今後も解りやすい講義を心がけるつもりである。

総会での同窓会会則改正案の提案

現在、加入率は26%に止まっており、特に若い世代の加入率が極端に悪い状況となっております。幹事会の企画グループが中心となり加入率向上に向けた活動も行っております。

例：同窓会が中心となって開講している「実践社会薬学講座」及び卒業式の後の謝恩会での加入案内の配布、アビール等

同窓会入会時に支払う金額が高すぎるのが原因ではないかとの意見が多いことから、会費のあり方を見直しました。その結果、入会金を廃止し、年会費のみとする以下の改正案を総会に諮る予定です。

なお、年会費については、毎年生じる同窓会の赤字額と実際の支出額を考慮し、増額させていただく予定です。

改正案	現 行
第20条 会費は、年会費2,000円とする。 終身会員の会費は50,000円とする。 なお、会員の一親等家族および会員配偶者の年会費及び終身会員の会費は、1/2とする。 付則（平成14年7月13日改正） 会則は平成14年7月13日改正より施行する。なお、経過措置として5年会員で既に支払った年会費はその期限まで支払ったものとみなす。また、入会金については、10年分の年会費を支払ったものとみなす。	第20条 会費は、入会金20,000円、年会費1,000円（5年に1度、5,000円を徴収）とする。 終身会員の会費は、入会金を含め50,000円とする。 なお、会員の一親等家族および会員配偶者の入会金、年会費及び終身会員の会費は、1/2とする。

同窓会だより

第5期生同期会開催報告

平成13年10月27日(土) ホテルグランドパレスにおいて薬学部第5期生の同期会が開催されました。

それは、夏の暑い日、「そろそろ同期会をしたいのだが」という突然の井上勗君の電話から始まった。有志が飯田橋に集合して準備することにした。会場探し、参加人数の予測、予算等数回の打合せをあわただしく行った。最初に予定していた会場が取れず、飯田橋から近いホテルグランドパレスに決めた。同期会開催通知の発送及び参加人数の確定等開催当日まで悩まされたがどうにか開

催に漕ぎ着けた。

桑原亮吉君の開会挨拶に続き、市谷仁君の乾杯の音頭と同時に会場は33年前の青春時代にフラッシュバックし、あっという間の2時間半であった。最後に有志を代表して井上勗君の開会の辞でまたの再会を約束して閉会した。ちなみに、今回の案内状送付総数139、出欠回答のあった者67名で、出席者は45名であった。地方から御参集頂いた方々、およびご多忙の中御参集頂いた方々に感謝いたします。また顔を見たくなったらどなたでも結構ですので、声を上げて有志を結成して下さい。最後に同窓会から多大なご援助を頂いたことに感謝いたします。(山川洋志)



昭和42年入学者の集まり

平成13年7月28日(土)の18:30から20:30に飯田橋の升本ビルにあるブラッセリー・ルポールで昭和42年入学者の集まりを行いました。参加者は45名ほどで、来賓として久保田和彦先生と原博先生が来られました。昔懐かしい人達ばかりで、少なくとも52か3才にはなったはずなのに、皆さんお若くてびっくりしました。女性陣も色々な形で社会に出て活躍をされている方が多く、そんなことも若さを保つ秘訣かなあと思いました。薬学同窓会からの3万円の補助金もあって、収支

決済は黒字になりましたので、この会の直前にインテリジェントロビー・ルコで行った薬学部同窓会で、会長の小島さんへ42年入学者の集まりから花束を贈ることが出来たのは良かったと思いました。2次会はウエンディーズの2階にある花のれんで行ないました。

地方から出席された方も多かったのですが、32名ほどが出席され23時頃までわいわいがやがやと大変なにぎやかさで締めくくりました。次回の幹事は奥村恭子さんに名目上決めさせていただきました。(文責：8期松岡 隆)

2000年度会計報告

東京理科大学薬学部同窓会

2000年4月1日～2001年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費(61件)	1,450,000	人件費	692,720
預金利息	43,958	電話代	35,970
名簿広告料	1,733,320	会議費	6,708
雑収入	8,000	諸案内状印刷発送費	650,467
		郵便代	183,345
		名簿印刷発送費	3,660,636
		講演会謝金	50,000
		交通費	10,000
		講演会打ち上げ援助	20,280
		実践社会薬学打ち上げ援助	92,690
		運動会寄付金	50,000
		卒業謝恩会寄付	50,000
		交際費	6,142
		同期会協賛金(3件)	90,000
		文具・事務経費	70,681
		雑費	12,526
合計	3,235,278	合計	5,682,165

前年度繰越金	25,948,324
今年度残高	-2,446,887
次年度へ繰越	23,501,437

資産内訳

定期預金(三和)	10,000,000
郵便定額預金	11,684,456
郵便局振替口座	498,040
普通預貯金	1,318,941
計	23,501,437

以上の通り会計報告いたします

平成13年5月2日

会計

池北 雅彦
村松 延弘



監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

平成13年 月 日

会計監査

安達 順一
岡宮 智子



**東京理科大学薬学部同窓会
2001年度収支予算**

2001年4月1日～2002年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	1,500,000	人件費	600,000
預金利息	40,000	電話代	50,000
		会議費	8,000
		会報発行発送経費(13号)	500,000
		会報発行発送経費(14号)	800,000
		諸案内状印刷費	400,000
		通信費	400,000
		講演会講師謝金	50,000
		交通費(講演会講師)	10,000
		運動会寄付金	50,000
		卒業謝恩会寄付	50,000
		交際費	6,300
		同期会協賛金(5件)	150,000
		実践打ち上げ援助金	100,000
		ホームページ作成及び維持費	60,000
		雑費	50,000
		予備費	100,000
合計	1,540,000	合計	3,384,300
当期収入	1,540,000	当期支出	3,684,300
前年度繰越金	23,501,437	次年度繰越金	21,357,137

日本薬剤師会学術大会でのポスターセッション

—薬科大若しくは薬学部の紹介—

昨年の10月7・8日にパシフィコ横浜で日本薬剤師会学術大会が開催されました。この学会では通常の学術発表のほかに、学会参加登録をしない方、つまり一般の方たちのためのセクションを設け、神奈川県薬剤師会の活動紹介や、健康日本21に関する展示がありました。

この中に本年初の試みとして、薬科大若しくは薬学部の紹介コーナーを設け、関東近辺の11の薬学部が参加しました。理科大も少しお金をかけ

て見栄えの良い展示をしました（一二を争う出来栄えだと自負しています）。内容は野田移転の件、特色ある教育として情報教育、同窓会主導の実践社会薬学の紹介です。

他大学では事務職員がおおなりに張り付いていたところが多かったのに反し、本学では教員が交代でブースに控えていましたが、そのためか、卒業生が懐かしげに立ち寄ってくれて昔話に花が咲きました。



東京理科大学薬学部 同窓会ホームページの開設

同窓会では活動の活発化、効率化を進めるために、このたびホームページを開設いたしました。このホームページでは同窓会の行事などに関する各種案内や卒業生を中心とした求人、求職の案内などを掲載していくつもりでいます。卒業生の方々にはこのホームページをご活用いただくとともにかわいがっていただきたいと思います。

ぜひ一度、アクセスしてみてください。なお、同時に同窓会事務局への連絡メールアドレスも

うけました。住所変更などの連絡にご使用ください。

同窓会ホームページURL

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

同窓会への連絡用メールアドレス

dosokai@ridaiyakudo.gr.jp

埼玉県薬剤師会の薬剤師職業斡旋

(社) 埼玉県薬剤師会 薬剤師バンクよりのお知らせ

埼玉県薬剤師会では、薬剤師無料職業紹介所（薬剤師バンク）を開設しております。転職・再就職にかかわらず、埼玉県内に勤務希望の方、また、薬剤師不足に悩んでおられる求人もどうぞお気軽にご利用下さい。

登録受付日：月～金曜日（祝日・年末年始を除く）

来所受付時間：午前 9 時 30 分～ 11 時 30 分

午後 1 時 00 分～ 4 時 00 分

厚生労働大臣許可 11-03-ム-0002

社団法人 埼玉県薬剤師会

薬剤師無料職業紹介所（通称：薬剤師バンク）

〒330-8631 埼玉県さいたま市土呂町1丁目50番地4

TEL(048)653-5261 FAX(048)652-6060

ホームページアドレス <http://www.saiyaku.or.jp>

e-mail bank@saiyaku.or.jp

幹事名簿 (1999年12月現在)

期	氏名	電話			
1	小原 侃	03-3364-4858	12	飯塚 忍	043-287-5152
	黒崎 浩巳	0475-24-9270		田中貴代子	03-3918-7445
	光井 英基	076-463-5717	13	池北 雅彦	03-3418-8586
	山口堅志郎	042-374-2102		濱野 朋子	03-3904-8578
2	日比野 貢	047-484-8057	14	波田野佐和子	047-483-6592
	山口 稽子	03-3680-0395	15	田村 哲彦	047-324-3737
3	青木みやこ	0467-86-5662		菅原 伸治	045-301-3216
	中村 洋司	0422-44-2744	16	中川 理恵	0471-83-4130
4	池田 幸雄	0438-41-6587	17		
	宇留野 強	0297-52-0421	18	渡辺 宏二	042-371-3119
	降矢美智子	046-256-1972	19		
	島谷 克義	0424-64-2555	20		
5	角田 公恵	03-3300-1834	21		
	山川 洋志	03-3427-6567	22	小川 政彦	0492-48-7259
	湯田 康勝	048-864-3982		安藤 秀一	03-3360-2822
6	伊藤 孝雄	042-574-2035		磯部総一郎	0422-54-5829
	野村 恵美	047-354-0269	23	和田 和裕	0425-81-2305
	漆畑 和子	0424-23-4413		上村 直樹	042-575-6836
	竹上 昭	042-378-9722	24	小安 純子	0427-99-0414
	藤井 幸子	03-3382-5723	25	伊集院一成	0424-69-3050
	渡辺 久子	0489-64-8000	26		
7	石井 賢二	0424-74-9145	27	工藤 菜美	
	寺山 博行	048-685-9383		前田 真	03-5762-1232
	飯田 典子	03-3334-7857	28		
8	松岡 隆	0297-72-9621	29	大瀧 充	03-5351-5526
	奥村 成太	03-3268-0109		神谷 貞浩	03-3388-6705
9	武尾 勝司	0492-71-7440	30	大瀧 希美	03-5351-5526
	林 一夫	027-260-1508		若林 政義	03-3949-5516
	村松 延弘	0489-83-3608	31		
	吉野 晃司	045-381-4543	32		
10	石井 啓子	03-5483-8089	33		
	中島 敏夫	043-271-6025	34		
	原 しげ子	03-3398-0137	35		
11	安達 順一	045-623-5565	36		
	石井 甲一	03-5483-8089	大学院		
	小暮 涉	0463-31-0813		石坂 隆史	03-3716-8224
	岡宮 智子	03-3336-6060			
	富秋 英志	045-982-0324			
	向井 呈一	0471-43-1029			

薬学部同窓会・年次別の入会者比率

同窓会入会率（平成14年1月30日現在）

期	会員数	正会員数	入会率%
1	124	89	71.8
2	139	98	70.5
3	158	75	47.5
4	135	79	58.5
5	183	100	54.6
6	188	65	34.6
7	190	75	39.5
8	155	56	36.1
9	174	70	40.2
10	169	57	33.7
11	181	80	44.2
12	251	87	34.7
13	174	56	32.2
14	192	53	27.6
15	137	42	30.7
16	175	57	32.6
17	183	55	30.1
18	199	49	24.6
19	159	31	19.5
20	185	49	26.5

期	会員数	正会員数	入会率%
21	188	46	24.5
22	188	54	28.7
23	179	49	27.4
24	189	37	19.6
25	160	26	16.3
26	169	30	17.8
27	200	27	13.5
28	241	25	10.4
29	178	21	11.8
30	180	11	6.1
31	200	24	12.0
32	176	16	9.1
33	202	20	9.9
34	169	3	1.8
35	178	8	4.5
36	170	2	1.2
37	184	3	1.6
38	163	0	0
計	6765	1725	25.5
大学院*	162	11	6.8

*理科大薬学部卒業生を除く

訃 報

河合慎太郎（2期）

古田一民（5期）

坂庭康夫（5期）（平成12年12月4日死亡）

堀江（旧姓）文子（7期）

（平成13年7月7日死亡）

村松延弘（9期）（平成14年5月20日死亡）

李 恵美（11期）

永原けい子（11期）（平成13年1月3日死亡）

谷山千泉（13期）

鈴木啓一郎（19期）

心よりご冥福をお祈り申し上げます

編集後記

同窓会幹事で理科大の情報薬学の村松先生が5月20日に急逝されました。先生は仲間の面見見が良く、実践社会薬学講座準備やこの会報の記事についても本当に親身にご協力頂きました。世の中上手く世渡りする人、無器用な人と色々な人がおります。

人生50を過ぎると世の中が良く見えてくるかもしれません。先生との会話を思い出しながら我が身を振り返っている今日この頃です。

ご冥福をお祈りいたします。